

## 「第 63 回道小オホーツク・北見大会について

(シンボルマーク・キャッチフレーズ他)

### ＜紺野 研修部部長＞

北海道小学校長会教育研究大会に対する基本的な考え方について。教育研究大会は、「校長の職能向上」と「本道教育の振興」を目的とした道小研究・研修活動の中核を担うものである。研究大会は、北海道小学校長会が主催し、開催地区は、5ブロックがもちまわりとし、大会運営は、主管する地区校長会が行う。

資料には、副主題・大会主題・研究課題の趣旨等の作成と決定について、大会テーマの作成・決定について、分科会の研究発表・協議・運営について、などの手順が書かれている。大会参加期待数の割合など、基本的な考え方も書かれているので、ご確認いただきたい。

次期研究大会に向けた道小としての基本コンセプトは、道小としての教育研究大会に対する基本コンセプトと、現地実行委員会の思いを融合し、大会の基本方針を確立させることである。

今回の第 63 回 オホーツク・北見大会は、今年度の胆振・苫小牧大会を含め、これまでの大会の成果と課題を踏まえながら、新たな主題・副主題のもとでおこなう最初の大会となる。また、令和 8 年の全連小北海道大会に向けての最初の一步ともなる重要な大会でもある。そこで、1 点お願いしたいことがある。

大会の発表内容の充実を図るために、令和 2 年 5 月に開催する「第 1 回分科会運営者研修会」からすぐに実質的な動きができるようにしたい。研究発表者については、できる限り早めに候補者を決め、早めに研究発表の準備に取り組むことができるようにご配慮いただきたい。

今後、オホーツク地区実行委員会との連携を密に進めていきたいと考えている。

### ＜佐藤 和俊 指名理事＞

オホーツク管内小中学校長会では、「オホーツク・北見大会」の開催に向け、平成30年度から準備委員会による準備を始め、今年度、業務内容を実行委員会に移行した。

大会の内容について2点提案申し上げる。

1点目は、キャッチフレーズについて。「子どもたちに 自己と未来を拓く確かな力を！ ～オホーツクブルーに輝く空の下 北見の大地からの新たな一歩～」と提案する。北見市は、市町村の面積では全道で最も広い、オホーツクの中核都市である。キーワードの一つとしている「拓く」は、厳寒の地を開拓してきたフロンティア精神をイメージしつつ、大会主題・副主題の文言等を基に設定した。もう一つのキーワード、「オホーツクブルー」には、子どもたちが未来への夢を抱き、健やかに伸びていくイメージを重ねている。全連小の新年次研究がスタートするこの年、オホーツクの地から新たな一歩を踏み出す大会としたいと願い、本キャッチフレーズを考案した。

2点目は、シンボルマークについて。オホーツク海最北部で誕生した流氷は、厳寒の海オホーツクに豊かな恵を与える。南北に広がる豊穡の地はオホーツクの誇りである。オホーツクブルーの青空に、子どもたちの夢の光に照らされ天高く舞うオジロワシ。そして、後景より発する13の閃光は、13分科会の希望の光を表している。虹色の光に包まれたオジロワシは、オホーツクの教育を俯瞰し、子どもたちの健やかな成長を願う象徴でもある。本道教育の希望の光を、北見市から全道へ発信するイメージを表現したシンボルマークとなっている。

会場について。全体会場は J R 北見駅から徒歩 15 分程度の「北見市民会館」で行う。分科会会場は、公共施設を中心に、市内各所の 9 施設 13 会場を用意した。各分科会会場には十分な駐車スペースがない場所もあり、移動は徒歩およびシャトルバスとなる。徒歩移動の会場は、全体会場の「北見市民会館」からほぼ 18 分圏内となっている。「北見市民会館」についても、駐車スペースは最大 180 台程度のため、できるだけ公共の交通機関等で参加していただければ幸いである。

記念講演について。講師は、「オフィス鶴羽」代表取締役の鶴羽佳子氏をお招きする。元 T V アナウンサーでもある鶴羽氏は、今年 10 月まで北海道教育委員会委員に就任されていた。現在は中教審初等中等教育分科会臨時委員にも就任している他、講演会・研修会講師等、各地で活躍されている。番組編成や報道での豊かな経験、コミュニケーションの大切さ、女性・母親としてのキャリア観、教育行政業務や多くの学校視察の経験など、幅広い観点からのお話が聞けるものと考えている。

大会アトラクションについて。北見市内には、合唱に取り組んでいる小学校がいくつもあり、学校行事や地域の催し、合唱コンクールなどで活躍している。来年の大会では、市内小学校の子どもたちによる合唱を聴いていただき、子どもたちが生き生きと活動する姿をご覧いただくとともに、北見市の教育活動の一端に触れていただきたいと考えている。

北海道小学校長会教育研究大会がオホーツクおよび北見市で開催されるのは、平成 12 年以来となる。現在、オホーツク管内小中学校長会による実行委員会は、北海道小学校長会事務局のお力添えをいただきながら、組織を挙げて準備を進めているところである。来年、北見市で皆さまのお越しをお待ちしている。